



五感をゆさぶる自然素材と「子どもあそび」の深まり

6月

(土・水・木(板)・石)

土山に水を流し、
おぼろげに流すを繰り返している。

何でせま止めようかと考え、土を盛って
うめこんでいりせをたぬいている。

「もう大丈夫？」
「うんうん」

→

「せまをゆるすとせま止めおぼろげ」

→

「水かちんぱしえ」

→

「大いおぼろげ!!」

→

「色々な物を
持つてきていた」

「おぼろげな流れ」

園庭のすみで、
木片と炭を見つけ
らく書きへ→

かたお節みしい!! →

水で土を削る↓

(水)

水と土を混ぜていくと
ゼミの幼虫を発見
水にまいたアミと
つかまえおぼろげ……

↓

「下の子どもたちは流し
てくる水の通り道をおぼろげ」

→

「上下二層の穴あり完成!!」

「タニシの卵を発見」

←

「大きな土山に穴をあけおぼろげ
ホースを引かおぼろげ。水の勢いを強めて
おぼろげに穴を掘っている。」

→

「交代でホースをもち、下の流しもおぼろげ」